片倉高校サッカー部通信　第40号

令和3年 12月21日

futbol y vida

Poco a poco …

2022 Team 初の“鍛錬期”に突入!!
自信とは「自分を信じる」こと!!

2022 Team 新人戦は昭和第一学園に敗れる!!

この冬の“鍛錬期”で成長し、春に結果を出せるよう精進する!!

12 月 12 日（日）、新人戦三回戦 VS 昭和第一学園戦が片倉高校グランドで行われました。片倉高校は、期末考査二日後直ぐの公式戦だったので、試験中もいつもより短い時間の中集中してトレーニングを行い、その前の週の土日には、昭和第一学園とのゲームを想定して日本工学院専門学校と東海大高輪台高校とのTRMを組むなど、今回の公式戦ではシード校を迎えるだけではなく、”勝利“という結果を導くための準備を周到に行ってきました。

昭和第一学園は、今年の選手権大会では、二次トーナメント進出し**ベスト 16**、地区トップリーグで優勝し来年度はＴ４リーグへの昇格決めるなど、チームが積み上げてきた成果が形に現れ始め自信をつけているチームです。同地区の一つ抜け出している大成高校に追随しているチームであることは間違いありません。新型コロナの影響や進学に重点を方向変換する学校の方針等により、公立高校の競技力が落ち私学との差が顕著に広がり始めている中、片倉高校サッカー部はどうにか踏ん張り活動を維持してきました。このゲームは、現在のチームの立ち位置（＝実力）を知る上で、今後の方向性を考える上でも、とても参考になります。もちろん、我がチームはシード校相手にここまで積み上げてきたトレーニングの成果を出すために真っ向勝負で挑みました。

＜シード校に真っ向勝負を挑んだ＞

シード校の昭和第一学園に果敢に挑む!!

片倉高校のキックオフで始まりました。先のユースリーグのこともあり、恐らくこの日は対称的な戦い方になると思っていました。昭和第一学園は運動量豊富でスピードのあるツートップが果敢にプレッシャーを掛け、奪ったボールはシンプルにこちらのＤＦラインの裏へ入れて、背後に圧を掛けてミスを狙います。立ち上がりこそは、相手のスピードに慣れるまでは少し慌てる場面も見られましたが、次第にそのプレスにも慣れプレスを剥がせるようになると、いつものようなボール回しやサイドアタック、ボールに多くの選手が絡みバイタルエリアの中に侵入できる回数も増えシュートまで持っていく回数が増えてきました。しかし、前半で三回（内一本はオフサイド）決定的なチャンスを作りますが肝心なシュートはゴールを捉えず、前半ラストには立て続けにシュートを狙うものの全てＧＫの正面に跳び、結局０－０で折り返します。

＜決定機を作るもののゴールは生まれず＞

後半は、目まぐるしいメンバーチェンジで、活きのいい選手を次から次へと投入する相手の勢い（圧）を感じつつも、この日は自分たちを見失うことなく最後まで落ち着いてプレーができました。ボールを握る時間も長くゲームをコントロールしトレーニング通り相手ゴールへ迫りますが肝心要のゴールには至りません。時折、カウンターからピンチを作られましたが、ＧＫを中心に守備陣が粘り強く対応しゴールを割らせません。しかし、後半 38 分に中盤のミスからボールを奪われてそこからショートカウンタ気味に縦に抜け出され、ＧＫとの一対一を冷静にゴールへ流し込まれて失点すると、その後はパワープレーでゴールを積極的に奪いに行きますが、最後まで昭和第一学園のゴールを抉じ開けることができずにこのまま**0－1**で敗れ、残念ながら新チームの初公式戦はここで終了しました。

＜セットプレーにも集中して対応＞

「勝ったチームが強いのだ!!」　by F. ベッケンバウアー(元西ドイツ代表キャプテン)

新人戦は、三回戦で昭和第一学園に真っ向勝負を挑みましたが、上記のレポートの通り力及ばずに敗れました。しかし、49 期生がこの二年間ここまで積み上げてきた成果を結果としては現れませんでしたが、80 分間のゲームを通して十分示すことができたと思います。**2022 Team** は、絶対的なストロングポイントがあるわけではありませんが、メンバー全員がボールに絡みながら多種多様な攻撃ができます。「まるで手品のようで次にどんなプレーが出てくるか楽しみだった。」とゲームを観戦していた他校の先生から「**面白い!!**」と評価を受けました。

＜攻撃のバリエーションが増えた＞

恐らく、その分普段のトレーニングはきついと思いますが、ゲーム中プレーしている子どもたちは楽しいと感じていると思います。公式戦は無観客試合が続き**“New K’s football”** を披露することができませんが、この冬のトレーニングで更に磨きをかけて、春からの公式戦では**“魅せる”Football** で結果を出したいと思います。

「強いチームが勝つのではなく、勝ったチームが強いのだ!!」

これは、1974 年のワールドカップで、西ドイツ（当時）のキャプテンを務めた**F・ベッケンバウアー氏**が、トータルフットボールを繰り出し大会最強といわれていた**J・クライフ氏**率いるオランダに決勝で勝った後の優勝インタビューでの言葉です。

勝負の世界は「結果」が全て、一本のシュート、一回のミスで勝負が決まるという公式戦ならではの厳しい現実を肌で感じることができました。もちろん人の成長のためには**過程＝勝つための可能性を上げるための努力**も大切ですが、やはり「結果」なのです。今大会の敗戦をチームで真摯に受け止めて、「**負けたチームに休みはなし!!**」の精神で、春の公式戦までに「強いチーム」になるため、早速、チームは動き出しました。

失敗や敗戦から学ぶことはたくさんあります。それを子どもたちが考えながら、冬の鍛錬期のトレーニングを積み重ね日々精進していきたいと思います。笑顔で春を迎えられるために。

＜After the Game＞

新人戦敗退後、早速、チームは冬の鍛錬期に突入しました。暫くの間は、フィジカルメニューの比重が増えてくると思います。大会後の子どもたちのレポートを読む限りでは、春に同じ轍を踏まないよう厳しいトレーニングを乗り越えられそうです。

今年も、残り 10 日となりました。サッカー部の活動は 30 日のサッカーカーニバルまで続きます。引き続き宜しくお願い致します。